

実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム（概要）

【類型Ⅱ】

実践校名：鳴門高等学校（普通科）**研究主題**

新科目「公共」の目標や内容の主旨を踏まえた学習プログラムの開発・実施
「徳島県鳴門市のまちづくりを考える」
～5年先，10年先，私たちが住み続けるまちであるために～

主題設定の理由

選挙権年齢や成年年齢が18歳に引き下げられ，在学中に成年となる者もあり，生徒はこれまで以上に主権者として必要な資質・能力を確実に身に付けておかなければならない状況となっている。このような中，令和4年度入学生から施行される新学習指導要領において，新科目「公共」が設置された。「公共」では社会に参画する主体として自立することや，他者と協働してよりよい社会を形成することに向けて，現代社会の諸課題について追及したり解決したりする力の育成が求められる。

本校は，令和元年度から2年間，国立教育政策研究所教育課程研究指定校事業の委託を受け，新科目「公共」の「学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究」に取り組んだ。主権者として必要な資質・能力を育成するための単元開発や育成すべき資質・能力に基づいた評価方法について実践研究を行い，大きな成果を得ることができた。

そこで，これまで取り組んできた成果を土台として，新たに「徳島県鳴門市のまちづくりを考える」～5年先，10年先，私たちが住み続けるまちであるために～をテーマとして設定し，同じ鳴門市にあり，総合学科とスポーツ科学科を有する鳴門渦潮高等学校と，普通科単独校である鳴門高等学校が，それぞれの学校の特長を生かしながら，違う視点の取組からテーマに沿った実践研究を実施する。

この学習プログラムは，ICTを積極的に活用したGIGAスクール構想による取組やコミュニティ・スクールの導入による外部人材の積極的な活用等，令和4年度から施行される学習指導要領に沿った取組である。学校所在地である自治体鳴門市の課題について，鳴門市や鳴門高校，鳴門渦潮高校，鳴門教育大学等が連携・協力した学習プログラムの開発であり，中学校までの学びを生かしながら，自分たちが生活する社会をよりよいものに構築する取組について，連携諸機関を有効に活用しながら学習プログラムの開発を図りたい。

概要

5年先，10年先の鳴門市を見据えたまちづくりに関する提案を行う過程において，主体的な社会参画態度を育み，責任ある社会参画に向けた思考力・判断力及び実践力を育む学習プログラムを開発する。

学習プログラムの主な内容

- ① 社会参画に対する意識を把握するための事前意識調査アンケートの実施
課題の把握及び探究課題設定のための「鳴門市のまちづくりに関するアンケート」作成【現代社会・1時間】
鳴門市のまちづくりに関する提案を行うにあたり、鳴門市の課題や鳴門市民のまちづくりに対する参画意欲を調べるためのアンケートを作成する。
- ② 生涯学習まちづくり出前講座の活用【「総合的な探究の時間」・2時間】
鳴門市教育委員会生涯学習人権課が実施する出前講座を活用し、探究テーマに応じて市役所職員等より、鳴門市が実施している施策等について講義を受ける。
- ③ 新科目「公共」の「公正な世論の形成，地方自治」に位置付けた単元構想【現代社会・7時間】
鳴門市が抱える課題とその解決に向けた提案を考える過程を通して、主体的な社会参画態度を育み，責任ある社会参画に向けた思考力・判断力を育む。社会のあるべき姿を描きながら課題解決策について妥当性，効果，実現可能性などの観点から考察し，効果的な課題解決策を構想する力の育成を図ることを目標とした。
- ④ 単元の学習を終え，得られた知識・理解や社会参画に向けた意識の変容を見るための事後アンケートの実施【現代社会・1時間】
- ⑤ 成果発表 【現代社会・1時間】
本年度の学習過程と成果を振り返り，来年度に提出する「鳴門市への提案」の方向性をまとめ，成果発表会で発表する。連携諸機関からの指導助言及び講評を，学習の深化を図る学習プログラムの開発・実践につなげる。

学習プログラムの成果の概要

- 単元の前後に社会参画意欲に関するアンケート調査を行った結果，肯定的な意見の割合が大きく上昇した。
- 課題解決型学習において，他者との協働や地域との関わりを通して問題解決に必要な態度・知識・技能を自覚し，それらを獲得，活用していく道筋を生徒自らが考え，学びを設計することが可能となった。
- 「主体的な社会参画意欲を高めること」を総合的な探究の時間との共通課題に設定した。公民科の単元配列を工夫することにより，カリキュラム・マネジメントが進み，学習効率及び効果を高めることができた。

実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム（内容）

【類型Ⅱ】

実践校名：鳴門高等学校（普通科）**学習活動① まちづくり出前講座（鳴門市役所各課）**

○ 鳴門市教育員会生涯学習人権課が主催する「生涯学習まちづくり出前講座」の受講。

各HRが設定した探究テーマに応じて鳴門市役所関係各課より講師を派遣していただき出前講座を受講した。

101 HR 「鳴門の文化遺産・自然遺産」

102 HR 「鳴門市の都市計画」「鳴門市の空き家対策」

103 HR 「幼稚園のおはなし」

104 HR 「市民生活と公共交通」「子育て支援新制度宅配便」

「高齢者福祉と介護保険制度について」「鳴門の商工業を応援します」

105 HR 「ごみ問題とリサイクル」「水環境生活排水対策」「特定外来生物の防除」

106 HR 「高齢化社会と地域」

「鳴門市健康づくりの推進と地域の医療を守り育む条例」について

107 HR 「災害に備えて」「地震に対する日頃の備え」

○ 「現代社会」と「総合的な探究の時間」の連携を柱に位置付け、現代社会における単元学習の導入としても位置付けられるよう実施時期に配慮した。

○ 「総合的な探究の時間」では、鳴門市の魅力及び課題の発見に重点を置き、「現代社会」では、授業で習得した概念や理論、社会的な見方・考え方を活用した解決策の提案、及び提案の妥当性等の再検討に重点を置いた。



【講師の先生へ質問】



【講師の先生による講義】



【地元商店まちにてフィールドワーク】



【鳴門教育大学にて聞き取り調査】

学習活動② 単元の学習

- 単元学習前の意識調査アンケートの実施
- 「鳴門市のまちづくりに関するアンケート」の実施
- 本事業に係る単元学習

単元名 「現代政治の特質と課題」

単元を貫く問い

「鳴門市の活性化に繋がる政策はどのような政策か？」

単元計画…全7時間

◆地方自治…2時間【思考・判断・表現】【技能】

問い：「鳴門市の課題とは何か」

学習内容：地方自治のしくみや課題について学ぶ。

Microsoft forms を用いて「鳴門市のまちづくりに関するアンケート」を実施・分析し、鳴門市の課題について考えた。

◆選挙の仕組みと課題…5時間

第1時 問い①：「多数決は民意を反映するか」

学習内容：合意形成の在り方について学ぶ。

観点別評価：【知識・理解】

第2時 問い②「徳島県，鳴門市の投票率が低いのはなぜか？」

学習内容：主体的に政治に参加する意義について考える。

●活用したアンケート項目

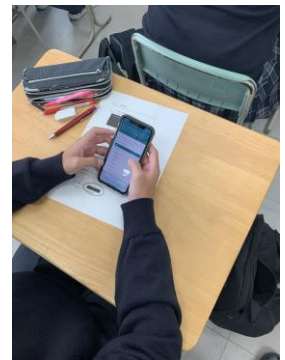
「国会や地方議会での議論に、皆さんの意見はどのくらい反映されていると思いますか？」

「鳴門市のまちづくりにどれくらい参画したいと思いますか？」

観点別評価：【思考・判断・表現】【関心・意欲・態度】

第3時 問い③：「選挙の争点や各候補者の政策は、どのようなシグナルを送っているか」

学習内容：令和3年11月に行われた鳴門市議会議員選挙の選挙公報を題材にし、各工法政治の座標軸（政治的自由度，経済的自由度，文化的自由度，結果や効果重視，動機や道徳性重視）を活用して選挙公報の分析をする。



観点別評価：【技能】

第4～5時

問い④：「責任ある選択に必要なものは何か」（2時間）

学習内容：アンケート結果やこれまで学んだ知識を活用し、模擬選挙公報を作成する。地方自治の課題や、現代政治の特質に関する理解を踏まえ、解決策の妥当性や効果、実現可能性を指標に、責任ある提案になっているか検証する。

●活用したアンケート項目

「政府や行政の政策の中で、自分たちの生活に最も関心があると感じられるものは何ですか？」

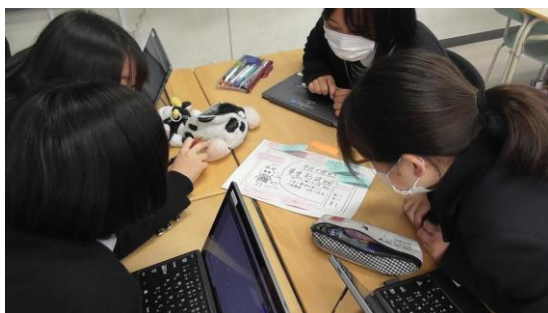
「鳴門市の良い点、改善してほしい点は何ですか？」

「鳴門市のまちづくりはどのようにしていくべきだと考えますか？」

観点別評価：【知識・理解】 【思考・判断・表現】

【関心・意欲・態度】

- タブレット端末の有効活用を図り、画面上でのグループワーク、画面上での意見共有による討議時間の確保を試みた。



- 公開授業を実施し、研究協議において、連携諸機関との協働を組み込んだ单元構想、授業改善、評価方法の改善について協議した。

学習活動③ 校内成果発表会

- 校内成果発表会（「総合的な探究の時間」と連携）

参加者：県教育委員会，鳴教大，鳴門市役所，四国税理士会，徳島税務署，鳴門渦潮高校

鳴門市の課題について、これまでの「現代社会」や「総合的な探究の時間」で学んだ内容を整理し、成果のまとめと次年度の見通しを発表した。連携諸機関から指導・助言を仰ぎ、政策提案に向けて探究的な学びを進めていく際の新たな視点を獲得できた。



実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム（成果と課題）

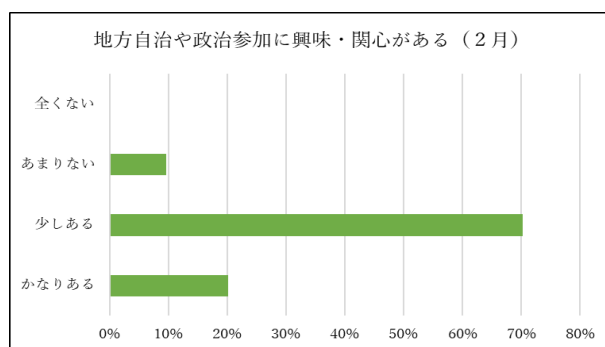
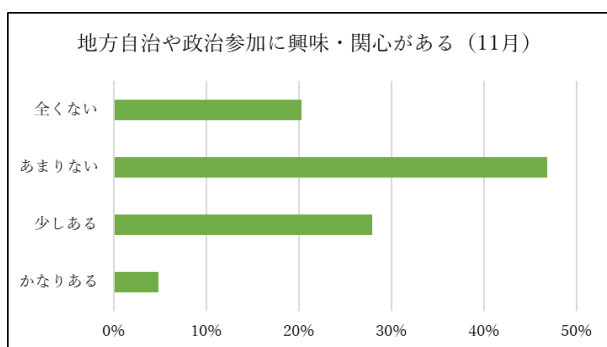
【類型Ⅱ】

実践校名：鳴門高等学校（普通科）

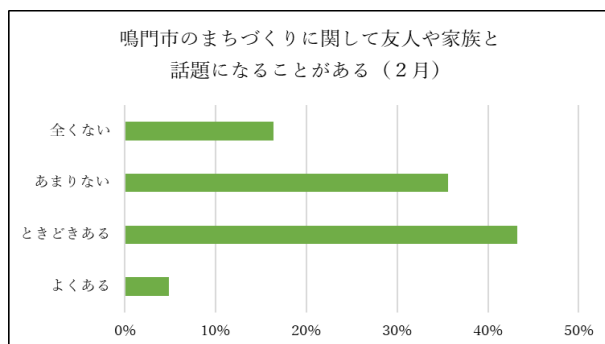
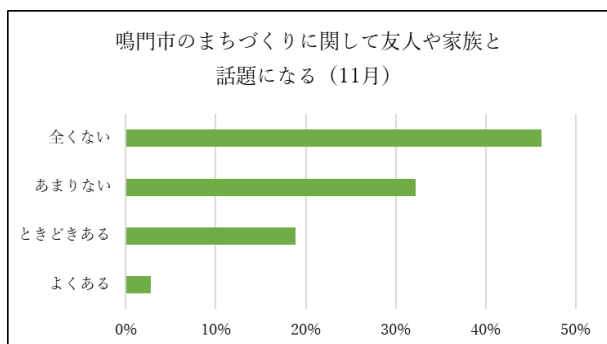
成果

（児童生徒の変容等）

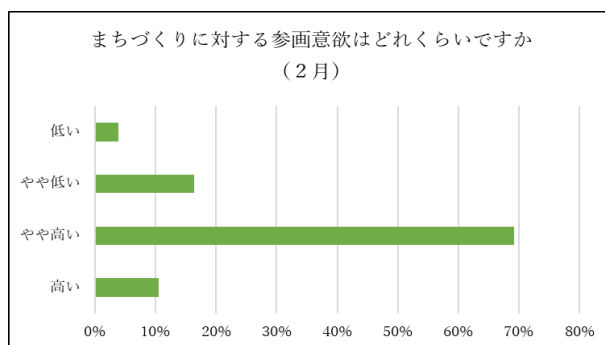
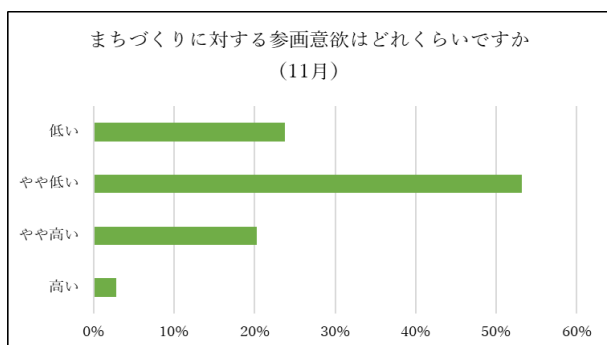
- 事前アンケートでは「地方自治や政治参加に興味・関心がある、少しある」と答えた生徒が33%であったが、2月に行ったアンケートでは90%になった。



- 事前アンケートでは「鳴門市のまちづくりに関して友人や家族と話題になることがある、たまにある」と答えた生徒が22%であったが、2月に行ったアンケートでは58%になった。



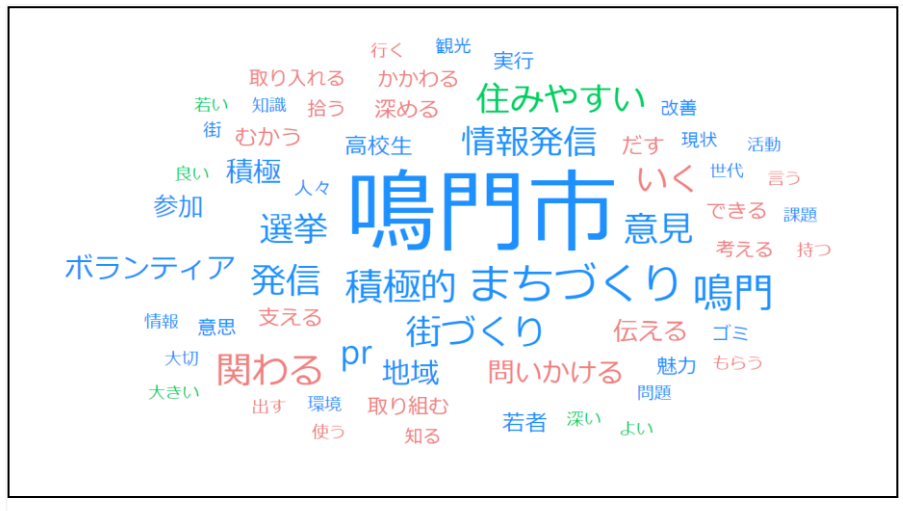
- 事前アンケートでは、まちづくりに対する参画意欲について「高い、やや高い」と答えた生徒が23%であったが、2月に行ったアンケートでは80%になった。



- 学習の前後で「5年先、10年先の鳴門市を見据えたとき、高校生としてどのようにまちづくりに関わっていきたいか」についての記述を比較すると、具体的にどのような問題に対し、どのように関わっていくのか、またそのために必要な力は何かを考えられている記述が多くみられた。また、自己の成長を前向きにとらえられている意見が多く、社会参画に向けての意欲と自信につながった。

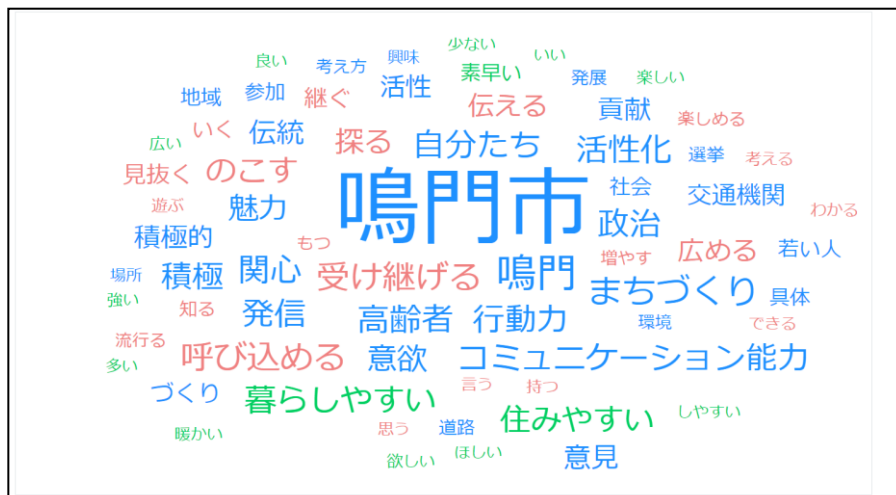
◆ 11月の記述をテキストマイニング

(<https://textmining.userlocal.jp/>)



◆ 2月の記述をテキストマイニング

(<https://textmining.userlocal.jp/>)



- 成果発表会において、専門家の視点から提案内容について講評をもらうことができた。実効性があり、説得力のある提案にしていくためのアドバイスをもらうことにより、次年度の学びの見通しを立てることができた。

(取組の工夫)

- 事業の核となる単元に係る単元構想を工夫した。その単元で活用させたい概念や理論の計画的な習得を図る年間指導計画の作成。
- 「総合的な探究の時間」（鳴門に学ぶ地域学，撫養街道ウォーク），コミュニティ・スクール関連事業（本年度は講演・講習を3回実施），他教科の出前講座（家庭科の消費者教育出前講座）等，外部機関と関われる機会の積極的活用を図った。
- 鳴門教育大学との連携を活かした，単元・教材開発に取り組んだ。

(他地域でも参考となると考えられる点)

- 1人1台端末など，ICTの活用により，情報の収集・分析・整理・活用の機会を確保することができた。また1人1台端末を用いた成果物の作成及び発表の機会を設けることにより，表現力やコミュニケーション能力を育成することができた。
- 鳴門市選挙管理委員会との協働により提供された過去の市議会議員選挙の選挙公報を活用した授業において，鳴門市の課題を考えるうえで，妥当性や効果，実現可能性の観点から各公約を検証する具体的材料にすることができた。
- 「主体的な社会参画意欲を高めること」を共通課題に設定し，「総合的な探究の時間」との関わりや連携諸機関との協働，公民科の単元配列を工夫することのより，カリキュラム・マネジメントが進み，学習効率及び効果を高めることができた。

課 題

- 連携諸機関との協働による「社会に開かれた教育課程」の実現
本学習プログラムが目指す学習のねらいを明確にし，学習の効率と効果を高める協働の在り方を検討する。まちづくりに関する提案の作成にあたり，鳴門市の広報誌「広報なると」に本事業内容及びまちづくりに関するアンケートを掲載し，地域への周知と参加を呼びかけ，「社会に開かれた教育課程」の実践を目指す。
高校生との協働によって，連携諸機関が得られるメリットについても情報共有し，継続した協働・協力関係の構築を図る。
- 課題解決型学習における評価方法の工夫と改善。ルーブリックによる評価規準の作成。生徒の学びの過程を見取るポートフォリオの実践。
ワークショップや外部人材による授業，ICTを活用した授業改善をさらに進めていく。さらにICTを成果物の作成や保管に役立て，生徒自身が学びを設計していく過程を見取る。自己の成長が実感でき，社会参画へ向けての自信と主体的態度が育まれる評価方法の確立をめざす。
- 公民科における年間指導計画，単元計画及び，関係教科，行事とのカリキュラム・マネジメントの推進。

実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム（概要）

【類型Ⅱ】

実践校名：鳴門渦潮高等学校(スポーツ科学科)**研究主題**

新科目「公共」の目標や内容の主旨を踏まえた学習プログラムの開発・実施

「徳島県鳴門市のまちづくりを考える」

～5年先，10年先，私たちが住み続けるまちであるために～

主題設定の理由

選挙権年齢や成年年齢が18歳に引き下げられ，在学中に成年となる者もあり，生徒はこれまで以上に主権者として必要な資質・能力を確実に身に付けておかなければならない状況となっている。このような中，令和4年度入学生から施行される新学習指導要領において，新科目「公共」が設置された。「公共」では社会に参画する主体として自立することや，他者と協働してよりよい社会を形成することに向けて，現代社会の諸課題について追及したり解決したりする力の育成が求められる。

徳島県教育委員会では「徳島県教育大綱」において，「社会を『自分事』として捉える主権者教育の充実」を目標に掲げ，自ら考え，自ら判断し，よりよい社会の構築をめざす意識を醸成するため，体験・探究型学習の充実を図るとともに，令和3年度には，全国に先駆けて県内全ての高校生に1人1台タブレット端末を整備し，その有効活用により，未来を担う主権者を育成する教育を推進している。

本校では，本事業を受け，財政に関する租税・社会保障の幅広い知識や思考を持つ人材育成を目指している。連携諸機関との協働により，外部人材を積極的に授業で活用するとともに，日頃から地域住民と触れ合い，話し合い活動を進め，地域と協働して防災マップを作成するなど，地域の課題を地域住民と共に存在する地域に開かれた学校としての使命を担っている。これらの取組を基盤として，次年度から実施される「公共」における学びを意識し，財政面の知識を軸に俯瞰的な視点から「徳島県鳴門市の未来」について，実践研究を推進することとした。

本年度は，スポーツ科学科を中心に実践研究を進めてきた。日頃，保健体育の教科・科目を中心に自身の技術や知識の向上に加え，周囲への配慮や協働の精神を身に付けてきた生徒だからこそ，実社会における知識に自分たちの想いを乗せて，地域の未来について真摯に考察を深めてきた。

令和4年度も，「徳島県鳴門市のまちづくりを考える」～5年先，10年先，私たちが住み続けるまちであるために～をテーマとして設定し，同じ鳴門市に在しており，スポーツ科学科を有する本校と，普通科の鳴門高等学校が，それぞれの学校の特長を生かしながら，違った視点でテーマに沿った実践研究に取り組んでいく。その際，鳴門市や鳴門教育大学などの連携諸機関や地域と積極的に協働しながら実践研究を進めていく計画である。

本校が取り組んでいる学習プログラム開発は、1人1台端末を始め、ICTの積極的な活用によるGIGAスクール構想の推進及びコミュニティ・スクールの活用等を通じて外部人材を積極的に授業に参画させる等、令和4年度から施行される学習指導要領の理念である、「社会に開かれた教育課程」を実現する取組である。鳴門市の課題について、これまでの学びを生かしながら、持続可能な社会の実現を目指し、四国税理会や徳島税務署職員など、連携諸機関を有効に活用しながら実践研究を進めたい。

概要

5年先、10年先の鳴門市を見据えたまちづくりに関する提案を行う過程において、主体的な社会参画態度を育み、責任ある社会参画に向けた思考力・判断力及び実践力を育む学習プログラムを開発する。

学習プログラムの主な内容

- ① 社会参画に対する意識を把握するための事前意識調査アンケートの実施
課題の把握及び探究課題設定のための「生徒の学びの意識に関するアンケート」作成
【現代社会・1時間】
鳴門市のまちづくりに関する提案を行うにあたり、鳴門市の課題や鳴門市民のまちづくりに対する参画意欲を調べるためのアンケートを作成する。
- ② 外部人材を活用した授業(鳴門市役所, 四国税理士会税理士, 鳴門教育大学教員による出前授業)
【現代社会・3時間】
実社会における各分野の外部講師から講義を受けることで、授業で学んだ知識と実社会における知識をリンクさせていく。税理士による出前講座(租税教室), 大学教員による出前講座(主権者教育), 鳴門市役所・税理士による出前講座(専門家へのインタビュー)などを実施し、実社会の課題を財政面から思考する際の知識や考え方について理解を深める。
- ③ 新科目「公共」の「経済社会の仕組みと役割」に位置付けた単元構想
【現代社会・7時間】
鳴門市が抱える課題とその解決に向けた提案を考える過程を通して、主として財政の側面から確かなエビデンスを確保することと、主体的な社会参画意識を育み、責任ある社会参画に向けた思考力・判断力を育む。社会のあるべき姿を描きながら課題について考察し、妥当性, 効果, 実現可能性などの観点から、効果的な課題解決策を構想することで、「より良い社会の構築」ために習得した知識や考え方を活用できる生徒を育成する。
- ④ 単元終末に、得られた知識・理解や社会参画に向けた生徒の意識変容を見取るために模擬請願書を作成した。【現代社会・1時間】

⑤ プレゼンテーション 【現代社会・1時間】

22HR 1班から6班までの各班で、自ら考えた模擬請願を発表し、クラスメイトから質問を受けたり、評価を受ける。また、事前アンケート結果を振り返り、自らの授業前後の地域に対する思いや考え方が変化したことを実感する。



学習プログラムの成果の概要

- 授業実践にあたり、社会参画の意欲に関する事前アンケート調査を行った結果、消極的かつ無関心な生徒の割合が半数以上を占め、地域の必要課題としてインフラ、店舗の出店など若者のことだけを考えた地域への要望が多かった。授業を進める中で事後アンケートでは、単元の最終目標である模擬請願書からは、高齢者の配慮や子育て世帯への給付についてなど社会保障に目を向ける生徒の割合が増えた。また、財源が限界に近いことを理解し、豊かな財源確保に向けて、企業誘致や税制の見直しについて、意見を発する生徒も見られた。
- 課題解決型学習において、他者との協働や地域との関わりを通して課題解決に必要な知識や技能、態度等を自覚し、学習を通して資質・能力を獲得しながら、活動していく過程を自ら考え、学びを設計することができた。
- 「主体的に社会参画意欲を高めること」を共通課題に設定し、外部人材を積極的に登用したことで、授業での学びが実社会でどうつながっていくのかを明確にすることができた。

実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム（内容）

【類型Ⅱ】

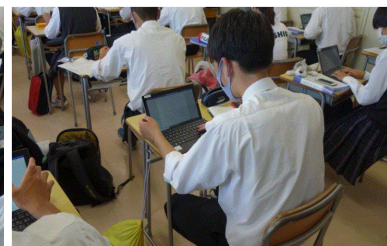
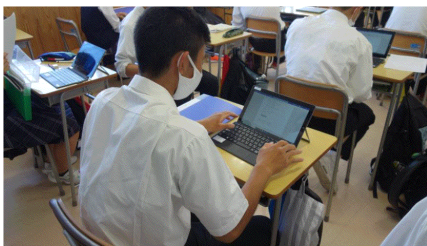
実践校名：鳴門渦潮高等学校(スポーツ科学科)

学習活動① 連携諸機関との協働による出前講座

- 歳入や歳出、主権者意識についての知識を高め、鳴門市の未来を創造する土台となる力（思考力）を身に付けるため連携諸機関との協働による「出前講座」の実施。
 - (1) 「高校生に知ってほしい税の知識について」
四国税理士会 久次米智之氏
 - (2) 「主権者意識を高める授業の充実のための出前講座」
鳴門教育大学 井上奈穂准教授
 - (3) 「鳴門市の歳出について」 鳴門市役所 中島晃平氏
- 公民科「現代社会」の授業を軸に、単元学習の導入として位置付けた。外部人材による「出前講座」により獲得できた知識や思考力を用いて、「地域の課題に主体的に取り組める」よう外部講師と講義内容や実施時期について十分検討をした。

学習活動② 単元の学習

- 単元学習前の意識調査アンケートの実施、「鳴門市にまちづくりに関するアンケート」の実施（現代社会；1時間）
- 本事業に係る単元学習の開始 「現代政治の特質と課題」
単元を貫く問い 「鳴門市の活性化に繋がる政策はどのような政策か？」
単元計画…全10時間



- 第1時 豊かに生きる権利（生存権）・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間【知】【思】
問い「健康で文化的な最低限度の生活とは、どのような生活？」
授業内容 生存権における判例について 自分の生活を振り返る
- 第2時 アンケート結果の分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間【関】
問い「みんなの意見とは？世代間で何を望む？」
授業内容 アンケートの集計 集計結果について考える。
- 第3時 社会保障と福祉社会・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間【関】【知】

問い「まさかの事態に。セーフティーネットとは。生涯幸せに。」

授業内容 社会保障の種類としくみについて理解する。

■第4時 これからの社会保障・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間【関】【思】

問い「少子高齢化社会に必要な考え方とは？」

授業内容 社会保障の現状と課題，未来に向けて考える。

■第5時 財政のしくみと税金【外部講師】・・・・・・・・・・ 1時間【知】【関】

授業内容 財政のしくみと税金の種類，財政の現状を把握する。

■第6時 財政のしくみと税金・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間【思】

問い「知識を実社会で活かすには？」

授業内容 鳴門市の財政状況を調べる

活動においては，生徒1人1台端末を有効に活用し，学んだ知識を活かし，自身の考えを生徒間で共有する。

■第7時 財政のしくみと税金・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間【関】【知】

授業内容 鳴門市の財政状況を調べる（グループワーク）

調べた内容をもとにグループで共有し，考えを深める。

■第8時 財政のしくみと税金・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間【知】【思】

授業内容 鳴門市の財政状況を調べる（グループワーク）

鳴門市の歳入・歳出について，グループで調べる内容を焦点化し，学習を深める。

■第9時 財政のしくみと税金（本時）・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間【知】

授業内容 専門家（鳴門市役所・税理士の方々など）へのインタビュー

学習を進める中で，疑問点などをオンラインによりインタビューしながら，グループのテーマについて，考えをまとめる。

■第10時 財政のしくみと税金・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間【思】【判】【表】

授業内容 模擬申請書を作成する

事前アンケート結果とこれまでの学習をもとに，意識の変化や思考の深まりを確認しながら，鳴門市に対して模擬申請書を作成する。

学習活動③ 成果発表会

■プレゼンテーション(現代社会)

22HR1班から6班までの各班で，自ら考えた模擬申請を発表し，クラスメイト

から質問を受け、評価を受けた。また、事前アンケート結果を振り返り、授業前後の地域に対する思いや考え方が変化したことを実感する。

【生徒の感想】

- ・「地域には、こんなに課題があることを知ることができ、どうにかしたいという思いがこみ上げてきた。」
- ・「自分たちのことばかり考えていたが、地域の様々な世代の人の立場に立って考えることができた。」
- ・「納税者として、納得して納税するためにも継続して知識を身に付けていきたい。」

【HRクラス担任等学校関係者及び連携した教育委員会担当者の感想】

- ・「地域の諸課題を自分たちで見つけ、自分たちで解決策を見つけている姿を見て、頼もしく思った。」
- ・「アウトプットしている知識がまだ十分でない生徒が見られた。今年度の課題として捉え次年度に繋げてほしい。」
- ・「発表者に質問をしている姿、それに回答する姿を見て、自身で調べ、確信を持っている知識については、発言に自信を感じる。」
- ・「全体通して主体的に授業に取り組んでいる姿を見て、教科と実社会とのつながりを生徒自身が十分に理解をしているように感じた。」

実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム（成果と課題）

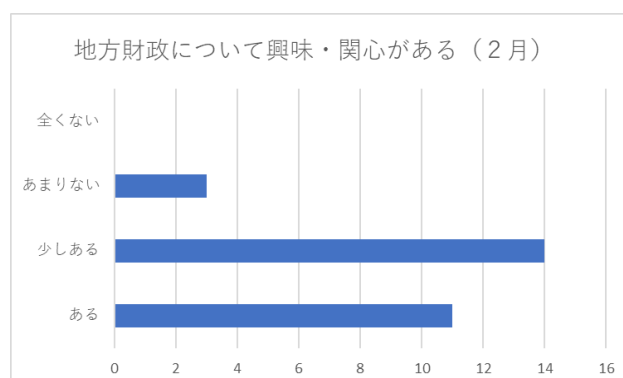
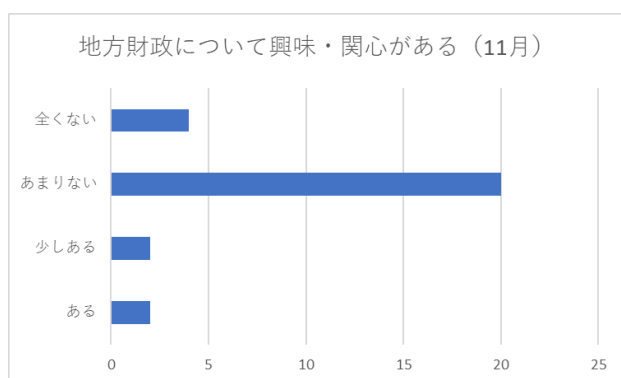
【類型Ⅱ】

実践校名：鳴門渦潮高等学校（スポーツ科学科）

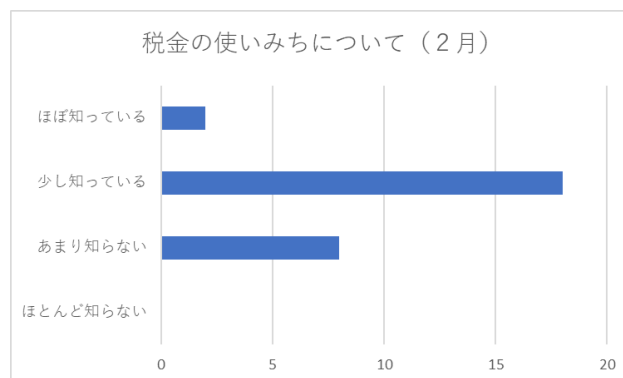
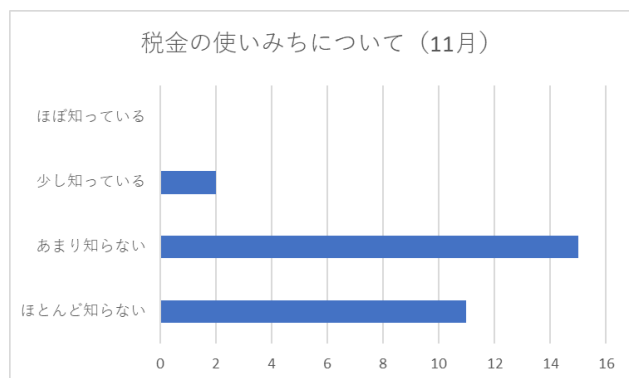
事前・事後アンケートからの考察

(生徒の変容等)

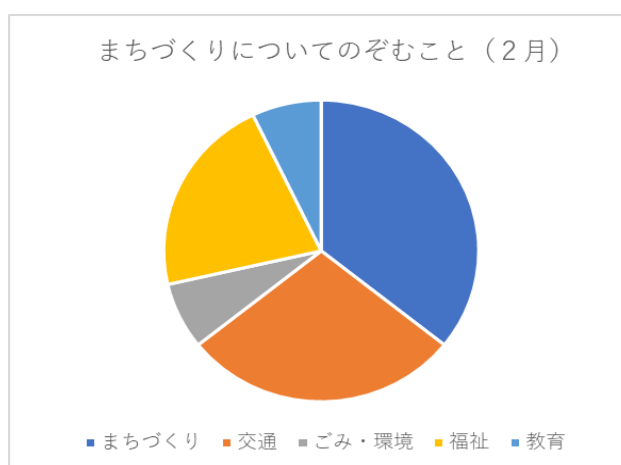
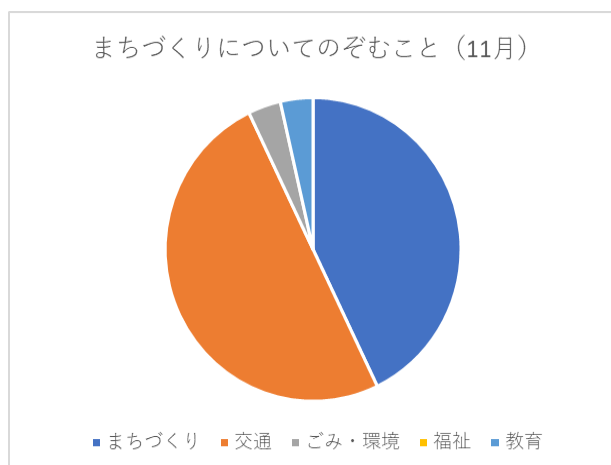
- 事前アンケートでは「財政分野について興味・関心がある、少しある」と答えた生徒は4名であったが、事後アンケートでは25名となった。



- 事前アンケートでは「税金の使いみちをほぼ知っている、少し知っている」と答えた生徒は2名であったが、事後アンケートでは20名となった。



- 事前アンケートでは「鳴門のまちづくりについてのぞむこと」については、ショッピングモールや遊び場の建設、交通の不便さを解消してほしいと答えた生徒の割合は90%超を占めていたが、事後アンケートでは、社会保障（子育て支援・介護）や企業への支援（給付金や減税策）をのぞむ生徒の割合が増加した。



（取組の工夫）

- 1人1台端末を活用して、休日や長期休業中も生徒同士でのグループ協議ができるようにした。
- 単元構想については、「生存権」「社会保障と福祉」「租税」「財政」を一つの単元と捉え、年間指導計画を作成した。
- 外部講師による出前授業を積極的に活用した。さらに連携諸機関（徳島県教育委員会、鳴門市役所、鳴門教育大学、四国税理士会、徳島税務署）と協働し、実社会とのつながりをイメージした授業ワークシートを作成し活用した。
- 県教育委員会担当指導主事や鳴門教育大学井上准教授と連絡を密に取り、教材開発についての指導助言を得た。

（他地域でも参考となると考えられる点）

- 授業では、電子黒板や1人1台端末等のICT機器を積極的に活用することで、授業の効率化が進み、学んだ知識をもとに、協議する時間や発表する時間を確保することができた。
- 連携諸機関との協働による外部人材を積極的に活用することで「社会に開かれた教育課程」を実現するとともに、学校での学びが実社会でどのように活かすことができるのかを体験的に学ぶことができた。
- 単元のまとまりを工夫したことにより、学習内容の系統性の見える化が図られ、生徒は見通しを持って学ぶことが可能となり、学習意欲が高まったと同時に、知識のつながりや実社会における行政・企業の役割をより鮮明に理解することができた。

成 果

- 連携諸機関との協働による外部人材による出前授業を単元の終わりに実施することで、単元の学びを振り返ることができ、知識の定着と実社会への興味・関心を高めることにつながった。また、外部人材の方々に学校における教育活動を理解していただく機会ともなった。次年度においては、これまで以上に、本事業の連携諸機関と協働を図り、オンラインなどを積極的に活用した生徒の学び実施したい。
- 財政における専門的知識を高めたことにより、財源面における知識の幅を広げることができた。生徒は、納税者としての立場から財政政策について関心を持つことの必要性を理解できた。しっかりとした知識の裏付けを持った生徒による「模擬請願書プレゼン

ンテーション」の際には、生徒はテーマについて自信を持って発言できるようになった。

(生徒の感想)

- 授業の中で、専門的知識を持った外部講師から話を聞くことにより、授業で学んだ知識が実社会とどのようにつながっているのかということがよく理解できた。
- 授業を受けて、授業中に先生が「知識は使う」と言っていた意味がわかった。
- 授業の内容について、専門的知識を持った外部講師に質問することができる機会があり、様々な視点から思考する事が重要であることがわかった。
- 自分たちが住むまちにおける「税」の使用 방법에注目していこうと思った。

(外部講師の感想)

- 自身の専門的知識が教育現場で役に立ったことをうれしく思う。今後もしっかりと支援をしたい。
- 高校生の税についての知識が理解できた。もっと基礎レベルの教室を定期的にも開いてもいいのではないかと思った。ただ、教育現場では教科の進捗等もあり、差し支えない程度で配慮したい。
- 授業で学んだ知識と実社会の専門的内容がリンクしている生徒とそうでない生徒の差を感じた。授業前の打ち合わせを綿密に行い、生徒の知識や授業のねらいを把握した上で授業をする方が効率的ではないかと思った。

課題

- 連携諸機関（四国税理士会税理士、徳島税務署職員）とのスケジュール調整に時間が費やされた。早い段階から調整し、学習内容について十分に情報共有を進めておく必要を感じた。授業での学習内容や単元の学習計画について共通理解を図り、外部人材による出前講座の内容を計画しておくことが大切である。
- 観点別学習状況評価の実施に際し、1人1台端末を活用した学びのポートフォリオを作成し、生徒の意識の変容について教員間・鳴門教育大学教員と共通理解を図り、的確に観点別学習評価ができる方法を確立することをめざす。
- 生徒間の1人1台端末の活用スキルに差が見られた。次年度はこれまで以上に1人1台端末の活用機会を増やす事で活用スキルの縮小に努めたい。
- 鳴門高校と連携した「鳴門市のまちづくり」についての提案に向けた協働の学びに向け、鳴門高校担当教員と連携を密にし、学習プログラム開発を進めていきたい。
- 「公共」取組実践研究を進めている学校の情報を集め、学校訪問等を実施し、実践事例の収集を図りたい。